



# 号 外

くみあいニュース

2006 年度号外第 2 号

2006 年 9 月 6 日

島根大学職員組合広報部

内線 2198, ダイヤルイン 32-6407

E-mail union-s@sula0043.soc.shimane-u.ac.jp

<http://sula0043.soc.shimane-u.ac.jp/kumiai/kumiai.html>

## 島大組合の新しい運動「要求集約月間」が始まります！

— キャンパスの隅々から、みんなの声を一つに束ねて「私たち島大職員の要求」を打ち出そう —

島根大学職員組合中央執行委員長 竹永三男（法文学部支部）

法人化後 2 年半が経過しました。この間、島根大学は新しい歩みを始めましたが、その一方で、予算と定員は削減され、仕事量は増加し、労働の密度も格段に高くなっています。「最近また、体調不良を訴える同僚が多くなった。」との声も聞かれ、休みもなかなか取れないという状態は、職員・教員ともに続いています。新しい昇級制度と個人評価、教員組織の改定など、かつてない制度変更も目白押しに進んでいます。

このような中で、一人ひとりの要求を基礎に、それらを束ねて大きな声とし使用者側＝大学当局にぶつけて、労働条件・職場環境の改善を勝ち取るという組合の役割は、ますます大きくなっています。この間、職員支部・レディース（専門部）を始めとして、続々加入している新しい仲間を加えて、組合の活動が一回り大きくなっているのも、このような法人化後の状況を何とか変えたい、変えて欲しいという切実な願いの現れだと思ひ、組合役員としての責任の大きさを痛感している毎日です。

この秋、島大組合が初めて取り組む「要求集約月間」は、職域・職種・職階ごとに固有の、また、それらの違いを超えた島大職員として共通の要求を、一人ひとり、一つひとつ取り上げ、それらを「私たち島大職員の要求」として一つに束ねて大学当局との交渉で提示し、実現を勝ち取っていかうとするものです。組合員とともに、まだ組合に加入していない全ての職員の声をアンケートで集約し、大学当局も無視できない大きな声にしていこうというものです。この取り組みは、また、労働条件・職場環境の改善によって、もっといい仕事をしたい、それによって教育・研究機関としての大学の役割をさらに発揮できるようにしたいという、「私たちの大学職員としての〈志〉」に発するものとして、社会的にも支持されるものになるはずで、大学の使命を果たすことが、職員の善意による過度・過密な労働に負っているような状況では、真に社会に貢献できる大学として長く存続できるはずはありませんから。

この運動の出発点は、小さな事から大きな問題まで、皆さんの具体的に切実な声を「アンケート」で寄せていただくことです。お寄せいただいたアンケートは、組合の「プロジェクトチーム」で集約し、各支部の集会・懇談会と中央執行委員会で検討した上で、交渉で提示します。どうぞご協力いただきますよう、心からお願いします。

## 「要求集約月間にどう取り組み成果をどう活かすか」

（長山泰秀：書記次長・要求集約月間プロジェクト責任者）

竹永委員長が書かれているように、組合ではこの 10 月を要求集約月間として、組合員、それも個人個人のバラバラな意見ではなく、同じ職域で仕事をしている、あるいは同じ職種であり、といった、普段仕事をしながら同じ疑問や意見を抱いているかも知れない「グループ」ごとの要求事項を集約し、今後の団体交渉などに活かして行こうとしています。

## ■ 期間中は学内のあちこちで集会在

具体的には、各支部から選出頂いたプロジェクトメンバーに、できたら「グループ」ごとに集会を開催して下さいとお願いしています。ひざを突き合わせて話をする事は絶対必要だと考えています。是非参加して、この機会にみなさんの普段の要求を組合にしっかり伝えて下さい。

## ■ アンケートを実施します

また、この期間にアンケートを行います。この回答も今後の要求課題の整理に役立たせて頂きます。御協力下さい。

## ■ それぞれのご意見を中央執行委員会に

こうしたグループごとの集約とは別に、中央執行委員会はいつでも皆さんのご意見を待っています。

## ■ 御協力を

プロジェクトメンバーには、集会開催やアンケートの配布、回収等に於いて、世話人を選出して協力して実施して下さいとお願いしています。声がかかったときには是非御協力下さい。

## ■ いただいたご意見を団体交渉に

期間中に集会やアンケートで頂いたご意見は、プロジェクトのメンバーを通して中央執行委員会に届けられます。中央執行委員会では、これらのリストを作成し、一旦生に近い形でみなさんに見ていただくと考えています。その上で、最終的には「組合重点要求事項(仮称)(案)」という形でまとめ、組合の正式の議決機関(大会または中央委員会)での承認を得た上で、この秋以降の団体交渉などによって要求の実現を目指していきます。

## ■ 組合の仲間を増やそう

この期間の集会、アンケート等は組合員のみならず、すべての教職員を対象とします。組合がやろうとしている活動を知って頂き、組合に加入した上で意見を要求事項としてともに実現を目指す仲間になってもらえればと考えています。この期間の後半には組織拡大のキャンペーンも同時に実施します。組合員の拡大にも併せてご協力をお願いします。

## プロジェクトメンバー

松本一郎 書記長(教育学部支部)	長山泰秀 書記次長(生物資源科学部支部)
中林吉幸 中央執行委員(法文学部支部)	倉田健悟 中央執行委員(総合理工学部支部)
山崎文子 中央執行委員(職員支部)	林正久 中央執行委員(教育学部支部)
加川充浩 中央執行委員(法文学部支部)	門脇正行 中央執行委員(生物資源科学部支部)
野村律夫 教育学部支部	小林亜希子 法文学部支部
澤田順弘 総合理工学部	大島朗伸 生物資源科学部支部
福原千晴 職員支部	高清水直美 レディース